

観光施策と「もちむぎ」振興 定期借地による商店街再開発

産業建設常任委員会

〔視察日〕

平成29年

6月28日～29日

〔参加議員〕

菊池充

多田勉

〔視察研修先〕

兵庫県福崎町

香川県高松市

照井文雄

荒川栄悦

多田誠一

〔同行職員〕

商工観光課長

荒井明広



学問成就の道の柳田國男像

■柳田國男の生誕地で河童が観光振興に一役

柳田國男生誕の地福崎町の、辻川山の学問成就の道には、柳田を含む松岡家5兄弟の石像を設置。5兄弟が如何に英才であったかを知らされた。また、隣接する辻川山公園には、柳田の著書から想を得た河童の河次郎が池から出て来て、多くの観光客でにぎわう。この企画立案は役場職員のユニークな発想によるもので、福崎町ならではの資源を生かした観光振興を担っている。

■先駆的「もちむぎ」栽培で六次産業化を推進

昭和58年に「もちむぎ」の栽培による特産品づくりに着手。特産館「もちむぎのやかた」

オープンや「もちむぎ麵、精麦、もちむぎ茶」が兵庫県認証食品の取得など、もちむぎの先駆的産地としての地位を築く。農地の総面積は730haの内、麦は80ha。農家2戸、4営農組織で生産、3加工グループが活動。収穫量の目標は10a当たり300kg、29年産の収穫量は100tの豊作。しかし、乾燥調整等の経費で採算割れの状況で、町の交付金や加算金を合わせ、生産が維持されている。町は課題解決に向けて次の手段に取り組んでおり、生産者もそれに応えていると実感した。

■100年を見据えた土地信託方式による商店街再開発

バブル期の地価高騰による住居の郊外への移転で高松市の中心部が空洞化。こうした流れへの対策に成功したのが高松市「丸亀商店街振興組合」。所有者が手放さない土地を活用し、収益を生み出す手段として「所有」と「利用」の分離が必要で、住み続けながら利用する「60年の定期借地権方式」に切り替えて成功した。

最後に古川理事長がまとめた言葉が、「後に続く子や孫に、僕たちはこの街に何を残してやるのだろうか、向こう100年を見据えたまちづくりを僕たちはしなければならぬ。」



丸亀商店街で理事長から説明を受ける

決算特別委員会

決算特別委員会（議長及び監査委員瀧本孝一議員を除く15人の議員で構成、委員長多田誠一議員、副委員長菊池充議員）は、決算等9件について付託を受け、審議を行いました。

今委員会では、事業後の成果等について活発な質疑が交わされました。その結果、全9議案が原案のとおり可決・承認されました。

職員定数は組織機構に対し適正か

問 平成28年度と平成29年度現在の職員数は

答 平成28年度351名、平成29年度344名(消防職員52名含む)。

健全財政5カ年計画による効率的行政運営に努めるためには、人件費を含め総合的に考える必要があるが、職員の定員管理計画と一致していないのが現状である。

問 退職者が多い中で

新採用職員は少ない。現在の組織機構に見合った適正な職員数であると理解してよいか。

答 経営改革大綱で総合的に判断して計画を進めている。条例の総数では400名を上限としているが、各部の職員数配分については、それぞれの部課等の意見を勘案して行う。

問 職員が提案や結果を出している働きやすい職場環境を確立すべきでは。

答 職員の年齢層は、

地域おこし協力隊活動の情報発信を

問 移住者等起業支援拠点施設整備の効果は

若年層が少ない状況にある。来年度予定している機構改革では、市民の負託に応え、職員の総合力を示せるような機構と時代の要請に合わせた適正な定数管理に努める。

答 一日市通りの空き店舗を、起業の志を持った「地域おこし協力隊」の活動拠点に改修整備した。個々では解決できない事案を話し合う場にもなっており、互いに切磋琢磨しながら活動を展開している。

地域のお悩みに関して、新しい視点でのアドバースが実践されることもあり、まちづくりの効果も上がっている。

問 協力隊の「情報発信」も事業目的のひとつ

答 地域の集まりに積極的に参加している。今

ではなかったか。日々の活動が市民に見えていないのでは。

答 関係部署では、月に一度の活動報告で情報を共有している。しかし、市民周知はまだ不足していた。

問 住んでいる地域での隊員個々の活動状況

は。



遠野まつりに参加する地域おこし協力隊員

ふれあい交流センターの運営状況は

問 監査結果報告をどう捉えているか。

答 全体的動向として利用者の減少、売上げが減収する中で頑張っている」と理解している。

問 平成24年度以降、宿泊者数は減少の一途

をたどっている。昨年は岩手国体もありながら売上げの減少に歯止めがかかっていない。原因は何か。

答 震災前の平成22年度と比較しても宿泊者数は維持している。稼働率も70%台を確保し、宿泊部門は頑張っている。しかし、全体としての決算は600万円程の赤字となった。原因は、宴会部門の婚礼がかなりの落ち込みである。市外の施設を利用する市民が多く、なかなかこの流れを止めることは難しい。

問 遠野ならではの企画等、工夫した取り組みが出来るか。

答 ホテルウエディングで工夫できる部分に取り組む。また、多くの利用が見込まれるイベントを企画しながら、経営改善に努めていく。